

*** お知らせ ***

毎年10月に発行していた「創竹会だより」は、都合により、今回の第24号より発行月を5月に変更いたしました。次号は令和8年(2026年)5月にお届け予定です。

竹早中学校のホームページがリニューアルされました。入試情報の他、生徒の活躍や学校生活の様子がわかります。



<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~takechu/>

令和6年(2024年)の文化研究発表会はスローガンを「白夜」と銘打って実施され、創竹会も「創竹庵」で参加。生徒デザインのタオル等の販売もしました。次回は令和7年(2025年)11月です。

令和6年度 創竹会総会報告

令和6年6月22日 令和6年度竹早中学校教育後援会「創竹会」総会が開催されました。

【議 事】

- (1)令和5年度事業報告・同決算報告・同監査報告
- (2)令和6年度「創竹会」役員選出
- (3)令和6年度事業計画、同予算案

【令和6年度 役員】

会 長	古谷顯史郎	奥津 浩美
副会長	宇田川耀平	丸山 正江
	武居 哲洋	雲雀寿美子
	飯田 道朗	山崎 玲依
	阿部 徹	今関真悠子
	大竹新太郎	林 靖子
	曾根 章生	川村 まき
	白仁田洋介	財津 愛
	大曾 根治	山崎 恵美
	高畠 裕	石田 美紀
顧 問	二瓶 好正	星 裕樹
	三嶋 明	沼田加奈子
	村上 一路	藤塚三季子
	荒井 正剛	鈴木 純子
	勝岡 幸雄	加藤 太智
理 事	阿部 芳枝	神沼 厚史

より良い教育環境の
実現のために

特別寄付のご協力をお願い

皆様からのご支援によって、創立75周年記念事業として体育館の床・壁・音響設備の整備に続き、下校庭の整備を行うことができました。心より御礼申し上げます。創竹会は竹早中学校の教育活動や教育研究への協力を念頭に置き、事業の根幹である教育活動・研究活動への後援、教育環境整備に關しての支援を続けてまいります。今後は創立80周年に向け「未来の学校」の実装(教育・目的に応じた学習環境の整備)や体育館の空調設備の整備等を進めてまいりたいと思います。国や大学からの限られた予算の中、竹早中学校の生徒たちにとってよりよい教育環境を実現するため、会員の皆様へ特別寄付のお願いです。

【創竹会のこれまでの主な支援実績】

- ◆災害時にも備え、教室の窓に防熱・飛散防止フィルムの施工
- ◆新型コロナウイルス感染症対策として体温計や消毒液等の購入の他、昇降口に靴底の除菌対策資子の設置
- ◆体育館の床をオリンピック規格の床材を整備、壁・音響設備を整備
- ◆「未来の学校 みんなで創ろう。PROJECT」SUGOI部屋、Dルームの整備に協力
- ◆使用ができなくなっていたブルを整備
- ◆小学校と協同し、下校庭の人工芝の張り替え

国立学校法人を通した竹早中学校への特別寄付は、所得税制上「寄付金控除」の対象となり、東京学芸大学からの寄付金領収証が発行されます。寄付金は通年募集していますが、領収証の必要な方は1月1日～9月30日の期間中に振込用紙での手続きをお願いします。尚、令和7年度(2025年度)の入学者様におかれましては、令和8年1月以降から「寄付金控除」の対象となります。
・1口10,000円で1口以上、何口でも結構です。
・勝手ながら振込手数料はご負担ください。
・領収証が不要な方はネットバンキングでのお振込でも可能です。

【体育館の空調設備】

令和6年(2024年)9月現在、東京都文京区の公立小・中学校の体育館には100%(東京都全体では88.3%)空調設備が設置されています。竹早中学校でも導入を検討していますが、設置費用やランニングコスト等の課題があり実現に至っておりません。夏には熱中症の危険にさらされ活動が著しく制限される状況を改善し、75周年記念事業で一新した体育館で思い切り体を動かし能力を開花させてほしいという願いから、学校の要請があればそれに従い今後支援をしてまいります。

口座番号：ゆうちょ銀行00180-9-392665

加入者名：創竹会

通信欄：在籍期と生徒氏名(〇〇期竹早太郎)

または卒業生氏名

ご依頼人：領収書に記載する方の住所・氏名

創竹会とは

創竹会は正会員(在校生の保護者)と賛助会員(正会員資格を有しないもので本会の趣旨に賛同する個人・法人・団体)からなる教育後援会です。2004年の国立大学の法人化以降、国からの運営交付金が削減され大学は財政的に厳しい状況が続いています。創竹会会員の皆様からの会費や寄付金は、竹早中学校の生徒のために毎年様々な形で活用されています。

編集後記

「創竹会だより 第24号」へご寄稿くださった皆様、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。創竹会はこれからも竹中生の「好きに、挑む」を支援してまいります。

創竹会だより

No.24

令和7年5月1日発行



創竹会会長
古谷顯史郎

会員の皆様へ

会員の皆様には、平素より教育後援会「創竹会」の活動にご理解とご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成13年(2001年)に創設された「創竹会」は、学校の教育活動、教育研究活動を支援して参りました。その活動は、生徒の生活用品、事務用品、図書、クラブ活動用品、電子黒板、空調設備、無線LAN等の必要な物品の調達、設備のメンテナンスなど、教育活動全般に及んでおります。令和5年度(2023年度)は、創立75周年記念事業として体育館床の改修、音響設備の改善が行われ、75周年記念式典、75期の卒業式を開催いたしました。音響効果の改善もあり、生徒諸君の合唱は、懐かしさと共に感動を覚えました。

令和6年度(2024年度)は、体育の授業にも支障が出ていた下校庭の改修が夏休みの期間中に完了し、9月の運動会でお披露目することができました。この予算は、小学校と折半し総額4千万円(各々2千万円)強で、PTA、創竹会及び同窓会の連携した支援により実現したものです。

また、皆様をお願いしております「特別寄付」は、3年後の創立80周年記念事業「未来の学校 みんなで創ろう。PROJECT」の原資となるものです。令和5年度(2023年度)は教室環境の改善として、生徒、教員、民間企業と連携しSUGOI部屋、Dルーム、リソースルームが設置されました。文京区立中学校でもこの制度を利用したSUGOI部屋が設置されるなど研究が進められています。今後は、研究及び実践の成果を研究発表、書籍化等教育界に発信していただきたいと思います。その他、OECD日本共同研究プロジェクトとして、「次世代対応型教育幼小中連携モデルの研究開発」他2案件に取り組んでいます。今後も校舎の老朽化に伴い様々な資金需要が出ると思いますので、学校、PTA、同窓会と密に連携して対応して参る所存です。

結びになりますが、会員の皆様のご健勝と学校の更なる発展を祈念すると共に、ご協力とご支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



学校長
馬場 哲生

校長あいさつ

平素より竹早中学校の教育活動及び施設改善に多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。ここ数年は、劣化が進んで滑りやすくなっていた下校庭の改修が喫緊の課題となっておりますが、創竹会、同窓会、ならびにPTAの皆様から多大なご支援をいただき、改修工事にこぎつけることができました。この原稿の執筆時点で、すでに緑の人工芝が敷き詰められ、各種ラインも引かれており、リニューアルされた下校庭は令和6年度(2024年度)2学期はじめて使用を開始しております。ご支援に心より感謝申し上げます。

さて、竹早中学校の第一の教育目標は、「自ら求め、考え、表現し、実践できる生徒を育てる」ことです。これを一言で表すと、「主体性」を育む教育になります。「主体性」「主体的」という言葉は近年、日本の教育の文脈で多用されており、「主体的に学習に取り組む態度」という表現が、学校教育法、そして小・中・高等学校での観点別学習状況の評価観点の1つとして使われています。また、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」という表現も用いられています。一方、「主体的」「主体性」に相当する英語はなんだろうと考えてみると、「これだ」という定訳がないことに気づきます。文科省による学習指導要領の仮英訳では proactive という語が使われていますが、言語教育では autonomous (自律的) という用語がしばしば使われます。いずれも「主体的」という日本語とは意味にズレがあります。一方、機械翻訳で「主体的」「主体性」という語を含むフレーズを中国語に翻訳してみると、「主体」の部分は「独立」「主動」などに置き換えられます。「主体的」「主体性」は、日本語独自の概念と言えるかもしれません。その日本語にも、「自主的」「自発的」などの類義語があります。何となくわかったつもりで使ってしまうがちな「主体的」「主体性」の意味を改めて考え直してみたいと考えております。

劣化が進み、滑りやすくなっていた下校庭 下校庭のリニューアル工事が完了

芝が薄くなり、地表が剥き出しになっている箇所がところどころにみられた下校庭。
令和6年度(2024年度)の夏期休業期間中、創竹会の寄付などを活用して芝の張り替え作業を行いました。一面緑の芝は目にも鮮やかで、校内の景観もよくなりました。



【Before: 改修前の下校庭】

体育の授業や部活動などで使用頻度が高いにも関わらず、滑りやすく転倒時の怪我のリスクが高く安全性に欠けることや、酷暑続きの夏場には熱がこもることなどが大きな課題でした。

令和6年(2024年)9月28日、大運動会「桜花爛漫」が盛大に執り行われました。前日の雨にも関わらず、水はけがよい人工芝は当日の朝には十分乾いておりました。クッション性のある地面に安心し、転倒をものともせず、力一杯躍動する生徒たちの姿をみることができました。



【目にも鮮やかな緑一面の下校庭】



【After: 改修後の下校庭】

生徒の声
・転んでも痛くなく怪我の心配が減ったことで、安心して身体を動かすことができます。
・スパイクを履いて思う存分練習できるようになったことが嬉しいです。(サッカー部)



【最終競技は恒例の全校生徒による「ムカデと因幡の白ウサギ」】



齋藤貴博先生

体育授業をはじめ運動部活動での使用にあたり、怪我は大幅に減少し、活動内容の幅も広がりました。芝に吸い寄せられるように、生徒たちが活動したくなる場となっています。環境が持つ意味を改めて実感しているところです。心より感謝申し上げます。

竹早中学校創立80周年へ向けて 「未来の学校」実現に向けた特別教室の改修が始動!

竹早中学校では現在、生徒たちが「好きに、挑む」ことのできる学校をつくっていく「未来の学校」の研究に取り組んでおり、その環境整備の一環として、大学や企業の協力も得ながら、特別教室を「新しい学びの形を実現させるための教室」に改修する作業を進めております。今後、以下に挙げた実習生指導室、社会科教室、美術室のほか、音楽室、理科室、メディアセンター(図書館)など、複数の教室の改修を予定しております。創竹会としましては、3年後に迎える創立80周年に向け、特別教室の改修作業を支援していく所存です。

<リノベーション進行中!>実習生指導室

令和6年(2024年)11月時点で、床の張り替えの工事は終了しています。

今後、可動式の机・椅子を導入し、個人の学習や仕事、ディスカッションなどのグループワーク、講義や模擬授業など、多種多様な用途に応じて空間のレイアウトを自在に変えられる教室へと改修される予定です。



<構想①>社会科教室

可動式の机・椅子を導入し、用途に応じてレイアウトを自在に変えることで、先生と生徒、生徒同士の“リアルな対話”を促すような環境をつくります。



<構想②>美術室

“生徒の創造性を拡張することのできる美術教室”というコンセプトのもと、個人のほかグループでも木工・絵画等の創作活動を可能にします。

また、3Dプリンタなどの多様なデジタル工作機械を備えた「デジタル工房」を併設し、オリジナルで自由なもののづくりの可能性を広げます。



竹早の生徒たちの学びの環境を向上させ、未来につなげていくための活動です。会員の皆様におかれましては、研究の趣旨をご理解いただき、引き続きのご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

未来へ



副校長
森 顕子

皆様、竹早中学校の教育活動に日頃より多大なご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。ことに、歴代の校長の悲願でありました、安全に活動できる下校庭の改修が、創竹会、同窓会、PTAの皆様方のお力によって実現致しましたこと、幾重にも御礼申し上げます。柔らかく緑色に輝く人工芝を嬉々として駆け抜ける子どもたちの姿は、本当に喜ばしくありがたく感じております。

また、現在本校では、80周年に向けて学校生活の環境整備を推進しております。20年近く前に、教科ごとの特別教室の充実を意図して、校舎改築が行われましたが、現在は、大学の支援も加えて、さらに未来に向けて、生徒も教員も一層学びたい環境整備を行っています。竹早の子どもたちの未来を拓く教育の模索に賛同してくださった企業の協力、教員の理想、そして子どもたちの発想力が三位一体となっているのが、極めて竹早らしい、と思っております。

竹早の未来のために、どうぞ、今後ともお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。